

# 令和3年度 病虫害発生予察情報

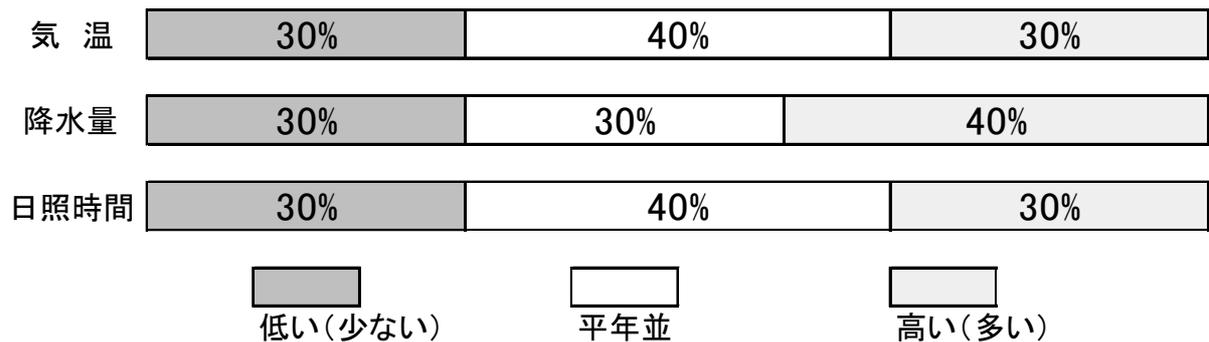
## 発生予報第4号（7月）

令和3年6月28日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや多い		
		ニカメイチュウ	やや少ない～平年並		
		ツマグロヨコバイ	少ない		
		セジロウンカ	やや少ない～平年並		
		トビイロウンカ	平年並～やや多い		
		コブノメイガ	平年並～やや多い		
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並
				黒星病	平年並
シンクイムシ類	平年並				
ハマキムシ類	やや多い				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	円星落葉病			やや多い	
	カキミガ			平年並	
	果樹全般			カメムシ類 やや多い	

中国地方1か月予報(6月26日～7月25日・広島地方気象台6月24日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生時期

平年並

発生量

平年並

予報の根拠

① 6月25日に本田での初発生を認めた。

② 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率1.0%、発病株率0.3%)。

- ③常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④向こう一か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率1.0%、発病株率0.1%)。
- ②常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③向こう一か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ②4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、定点調査では0%(平年1.3%)と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①近年、本病の発生は少ない。
- ②6月中旬に感染に好適な降雨があった。
- ③向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は34.8%(平年28.5%)、捕獲数は1.6頭/50株(平年1.2頭)で発生量は平年に比べてやや多い。
- ②6月第4半旬までに予察灯(出雲市)で1頭(平年0.1頭)ネットトラップ(出雲市)において4頭捕獲された。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、被害株率は0%(平年0.16%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②6月第4半旬までの予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.9%（平成27.9%）、捕獲数は0.2頭/50株（平成1.8頭）で発生量は平年に比べて少ない。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平成並

予報の根拠

① 予察灯への初飛来は5月第4半旬と平年に比べて早い、6月第4半旬までに、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。

② 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は15.2%（平成33.6%）、捕獲数は0.3頭/50株（平成2.3頭）で発生量は平年に比べてやや少ない。

③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

注）令和3年度 ウンカ情報 第1号 病害虫防除所HP参照。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。

② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。

③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。

② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。

③ 向こう一か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）で斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計が73頭（平成32.6頭）と平年に比べてやや多い。

② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類の発生ほ場率は58.8%（平成64.64%）と平成並み、捕獲頭数は17.4頭/20回振り（平成9.5頭）と発生量は平年に比べて多い。主要種はアカスジカスミカメである。

③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

## B. 果樹

### 1) ナシ

#### (1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は6.1%（平年6.8%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率は0.9%（平年0.9%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 やや早い

発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年に比べてやや早く、誘殺数は平年並みである。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平年に比べてやや早く、誘殺数は平年に比べてやや多い。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

#### (5) ハダニ類

予報内容

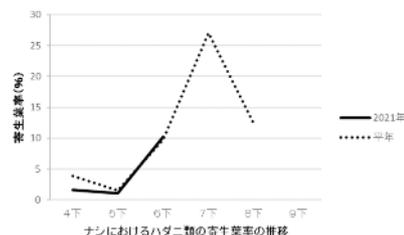
発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率10.2%（平年9.8%）、寄生虫数29.6頭/50葉（平年21.8頭）と平年並みである（右図参照）。

② 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



#### (6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

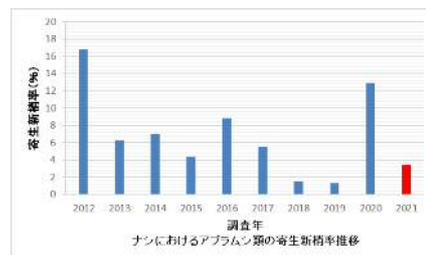
発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率3.4%（平年7.5%）、寄生度1.5（平年2.9）と平年に比べてやや少ない（右図参照）。

② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。

③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



## 2) カキ

### (1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量(感染量) やや多い

予報の根拠

①前年の発生は平年に比べてやや多く、伝染源量は平年に比べてやや多いと考えられる。

②向こう一か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

### (2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。

②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

## 3) 果樹全般

### (1) カメモムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)

発生量 やや多い

予報の根拠

①6月第5半月までの予察灯でのチャバネアオカメモムシ、クサギカメモムシ、ツヤアオカメモムシ3種の合計誘殺数は266頭(平年値126.0頭)と平年に比べてやや多い。

②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

### 農薬の安全使用の徹底を!

- ・農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する。
- ・防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>